

木彫による造形研究 2020

クロッキー&ドローイング

岩井 義尚 *IWAI Yoshinao*

(美術領域)

作品の形の素は、「自然のモノをデッサンしていると、その源は球体、それも機械的な球体ではなく、心地良い球体の単体又は複合体である」と考える。私の創作は、この考えを基に「視覚に訴えかけるのに重要である水平要素・垂直要素そのものが創り出す空間」を使い構成している。



Form 2101

第42回 中部二元展 2021年3月9日～14日
愛知県美術館 8F ギャラリー (A・B・C室) (名古屋市)

テーマ；「動き」「流れ」「生」「種」

立体作品における制作は、テーマからイメージし、形の根源を動物（人も含む）・植物・自然現象から創作要素を探り、構成を考慮し、素材（木）を彫ることにより形（Form）を創り出す手法で具現化した単体又は集合体で表現している。

平面作品は、ペンで描く多くのフリーハンドの線の重ねにより、人物を構成し、立体作品に影響するエスキースの要素を含むドローイングと人体クロッキー（各種描画素材）により、テーマを表現する研究をしている。



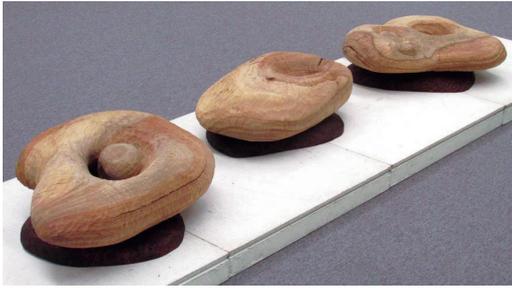
「生」「種」をテーマに母体をイメージし、クスの原木の形を極力利用して本体に、内側を彫り出し「内に秘めた感情」を、モコモコした球状の連結された形、或いは単体の球状の形の集合体で「取巻く環境」を作り、『ある世界』を表現した。

Form 2002

樟(クス) 集合体 彩色(オイルステイン)

H98×W152×D100 (cm)



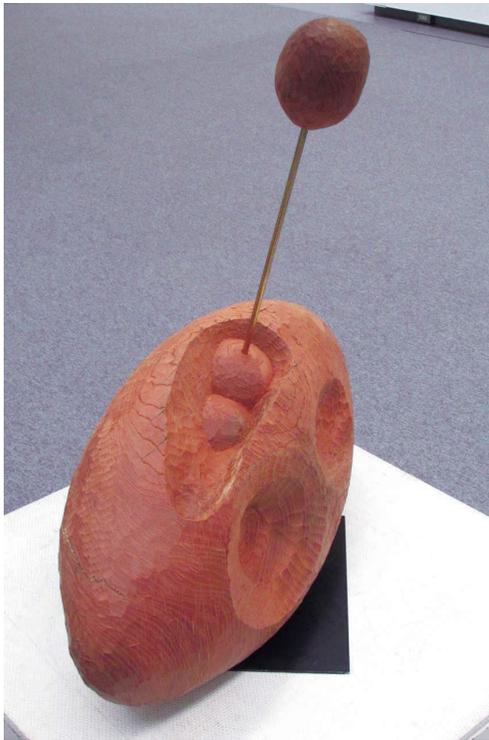


Form 2001

樟(クス)+桂(カツラ)+A.B.W. 集合体
H30×W250×D85 (cm)

A.B.W.= アメリカン ブラック ウォール

「生」「種」をテーマに母体をイメージし、クスの塊の形を活かし、内側を彫り出し「内に秘めた感情」を、輪状の柔らかな形状の中に球状のモノで表し、三つの連結された形の集合体で『取巻く環境』を表現した。



Form 2101

樺(ケヤキ)+ A.B.W.+ 真鍮棒
H91×W88×D36 (cm)

A.B.W.= アメリカン ブラック ウォールナット

「生」「種」をテーマに母体をイメージし、ケヤキの塊の形を極力利用して本体に、内側を彫り出し、そこにモコモコした球状の連結された形で「内に秘めた感情」を、くぼみのポイントや異素材を組み合わせ集合体にして『優雅さ』『やさしさ』を表現した。



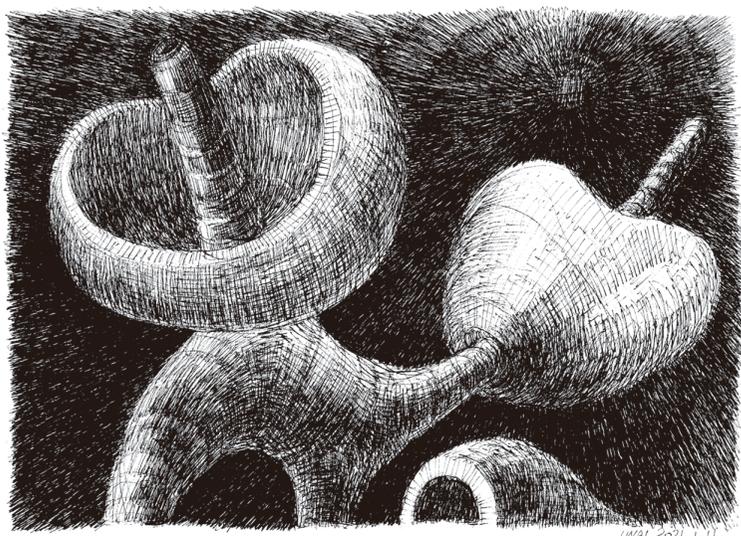
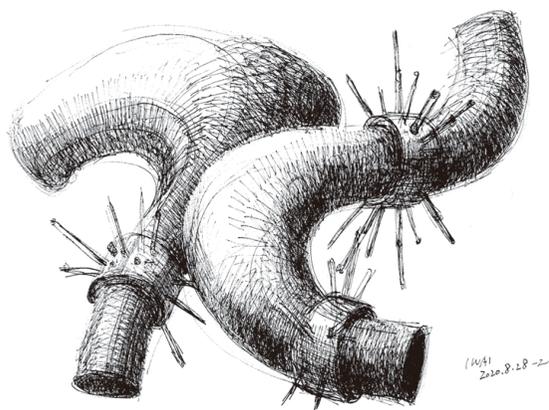
上下の二枚の画像は、この作品の本体にした「ケヤキの塊」で、形を決め電気チェーンソーで大きく切り出した画像(上)と、内側の彫り出しのためのチェーンソーでの切り込みを入れた段階の画像(下)である。





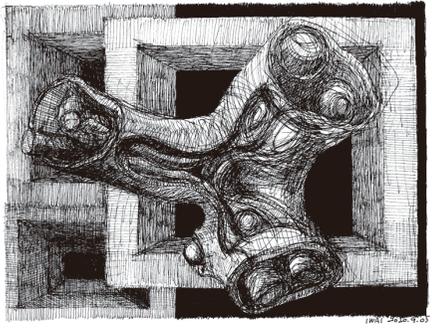
Form 2003
樟(クス) 変木
H43×W44×D39 (cm)

「生」をテーマに、クスの変木（塊）のそのままの形を活かし、枝分かれた表面や洞の内側を彫り出し、モコモコした球状の連結された形の集合体として、不安定に見えながらバランス良い立ち方と、洞の内側のかすかに見える「小さな塊」により『生命力』を表現した。



ドローイング

立体やレリーフ作品のためのアイデアを紙（水彩紙）にペンで描き、抽象化（単純化及び複雑化）した形と背景としての空間を重ね合わせて、『生』『躍動』を表現した。

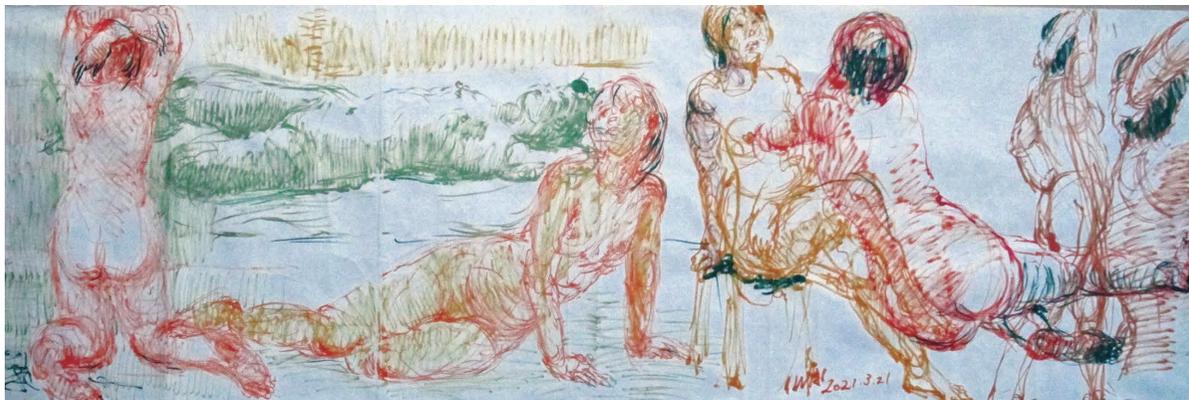




ドローイング

立体やレリーフ作品のためのアイデアを紙（水彩紙）にペンで描き、浮遊した子供の形を借りて「流れ」「動き」を意識し、『躍動感』を表現している。





クロッキー

現在所属している「中部二元会の研究会。」と「Art of 20歩」のクロッキー会での成果で、和紙に筆ペン（カラーブラッシュ&金銀朱色）を用いて、和紙画面にモデルポーズをその場で構成しながら描写している。中部二元会の研究展（名古屋市民ギャラリー栄）等で発表している。

